目　次

はじめに …… 1
調査資料および調査方法 …… 1
調査成績 …… 3
考え方 …… 4
おわりに …… 10

【付表】
表１　タイムスタディー調査の調査員（歯科医師）数とその分布 …… 11
２　診療項目と時間測定区分 …… 12
３　診療項目と保険診療報酬請求項目との整合表 …… 29
４　診療項目と技術度一覧 …… 46
５　タイムスタディー調査の成績
５－１　修復 …… 52
－２　歯内 …… 53
－３　義歯 …… 54
－４　クラウンブリッジ …… 55
－５　口腔外科 …… 56
－６　歯周 …… 57
６　領域別診療項目の所要時間による分類 …… 58
７　診療項目の所要時間と技術度の比較
７－１　修復 …… 59
－２　歯内 …… 60
－３　義歯 …… 61
－４　クラウンブリッジ …… 62
－５　口腔外科 …… 63
－６　歯周 …… 64
８　診療項目の所要時間と保険診療報酬 …… 65
９　保険診療報酬との比較
９－１　領域別診療項目の所要時間１分あたり総保険診療報酬の評価分類 73
－２　領域別診療項目の所要時間１分あたり技術料を主体とした
保険診療報酬の評価分類 …… 74
10　保険診療報酬評価区分と技術度 …… 76
11　代表的症例の総所要時間と保険診療報酬評価 …… 77

はじめに

近年、一般社会と同様に医療界にも大きな改革の波が押し寄せている。そのひとつに、ともすれば域外の人々には閉鎖的で理解の困難であった医療の内容を開示し、その運用に公平性、透明性、合理性を付与しようとするものである。その結果、現在では医療改革という命題の下に、国民、医療人を中心とし、各界の識者が集まり多くの改革が同時に進行している。そのなかで現実の医療がどのようになされているかその実態の把握は、今後の施策を考える上で必要不可欠なことである。

日本歯科医学会では以上の事柄に鑑み、１９９２年頃から歯科医療の主要部分である、外来診療（一般開業医）における診療項目に要する所要時間の計測をタイムスタディー調査として行い、１９９６年にその調査報告を公表している。いうまでもなくタイムスタディーは、歯科医療評価のうちドクターフィーとされる技術料関係部門の重要な因子として位置づけられている。それから約１０年を経過した現在、歯科診療においても新しい診療の概念、手法、器材が導入され、診療形態も大きく変わりつつある。そこで、日本歯科医学会ではこの２１世紀に入った時点を捉え、近時点における歯科診療外来における診療実態を把握するための一環として、再度、同様のタイムスタディー調査を実施することにした。

今回は、診療報酬体系の見直しという側面も考え、このタイムスタディーと調査した診療項目の技術度との関係、あわせて社会保険歯科診療報酬点数評価との関連についても分析を試みることとした。

調査資料および調査方法

１．調査の概要

本調査は２００３年９月日本歯科医学会のなかに設立された歯科医療問題調査研究プロジェクト会議において調査することが決定された歯科医療外来の診療項目についてのタイムスタディー調査である。

２．調査方法

１）調査員（歯科医師、歯科衛生士）

本調査の調査員としては臨床経験５年以上の歯科医師とし、全国都道府県の日本歯科医師会会員から、所属会員数の比率に応じてそれぞれ算出、選抜された１６８名（表１）。

また、日本歯科医学会の専門分科会にも依頼して、日本歯科保存学会